

汚水適正処理構想

持続的な汚水処理システムの構築に向けた見直し

北部処理区の面整備（管きょ工事）において

うちは2年前に
合併処理浄化槽
で家を建てたの
に、下水道につ
なぎ替えないと
いけないのか？

私は、もう年だ
から、生きてい
る間は、今のま
ま暮らしたい。

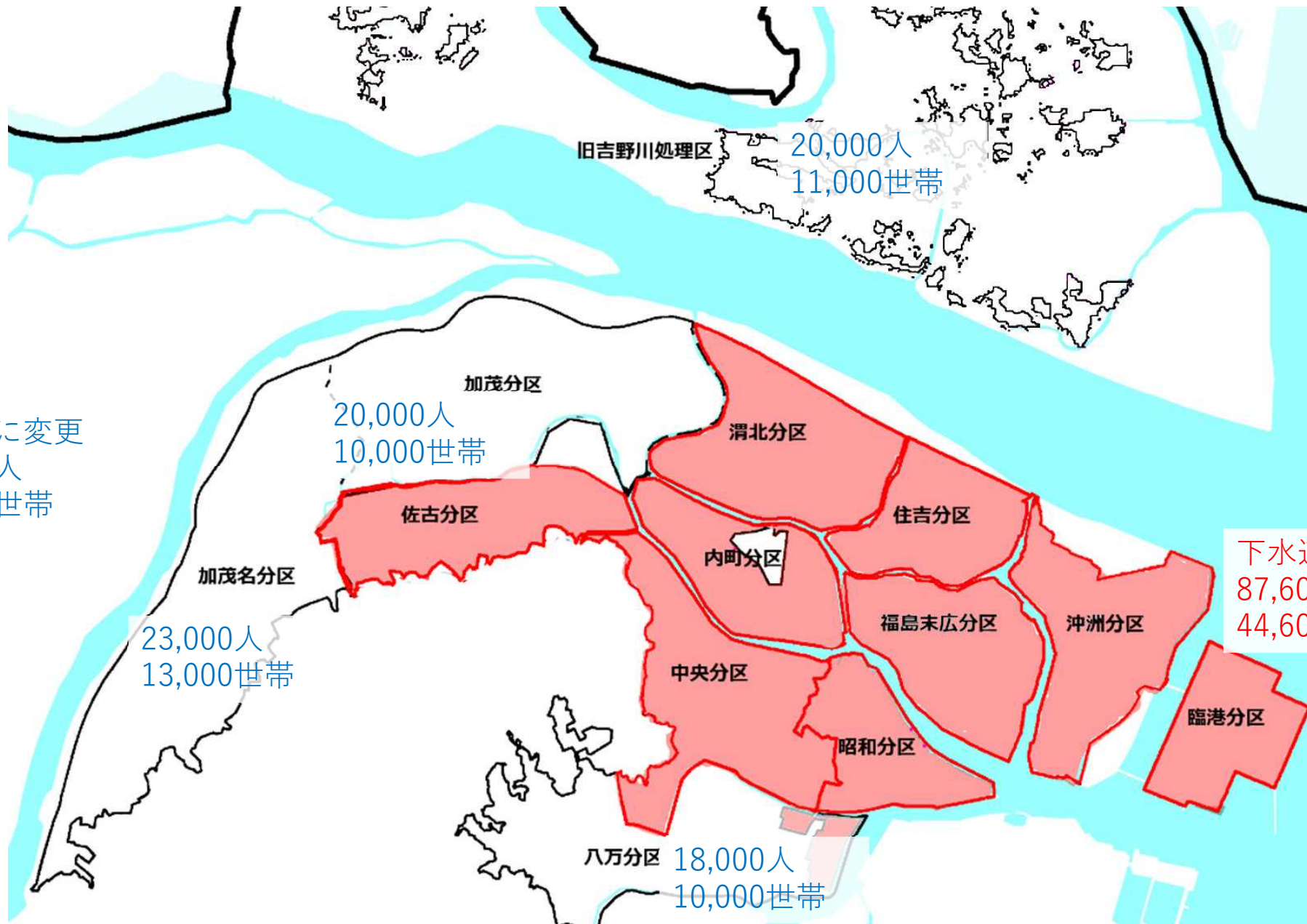
水洗トイレだか
ら、特に困って
いない。できれ
ば浸水対策して
ほしい。

これまでの汚水処理構想のままだと？！

- 全体計画の未整備地区は1,894ha(公共1,481 + 流域413)
- 年に20ha整備しても95年かかる長期計画
- この間に、施設の高齢化が進み、長寿命化が必要となる
- 少子高齢化の進行で、人口は23万人に縮小 (R17推計)
- インフラを維持するためには、人口密度が高い方が効率的
- 面整備を進めると同時に約44千基相当の浄化槽を廃止
- 市民にとって、不利益や不公平感を感じる政策となってしまう

時間軸等の概念を勘案した効率的な汚水処理のあり方





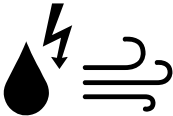

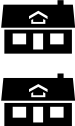

浄化槽に変更
81,000人
44,000世帯



下水道 + 特環
87,600人
44,600世帯

近年の社会情勢の変化

社会資本に求められる持続可能な事業継続性

- 人口減少時代の到来  
 - 施設の高齢化・老朽化  
 - 災害への備え  
 - 効率的な施設配置  
- 人口規模に合わせた施設
 - 適切な改築更新
 - 事前復興を見据える
 - コンパクトシティ

費用判定だけではない判断要素に着目

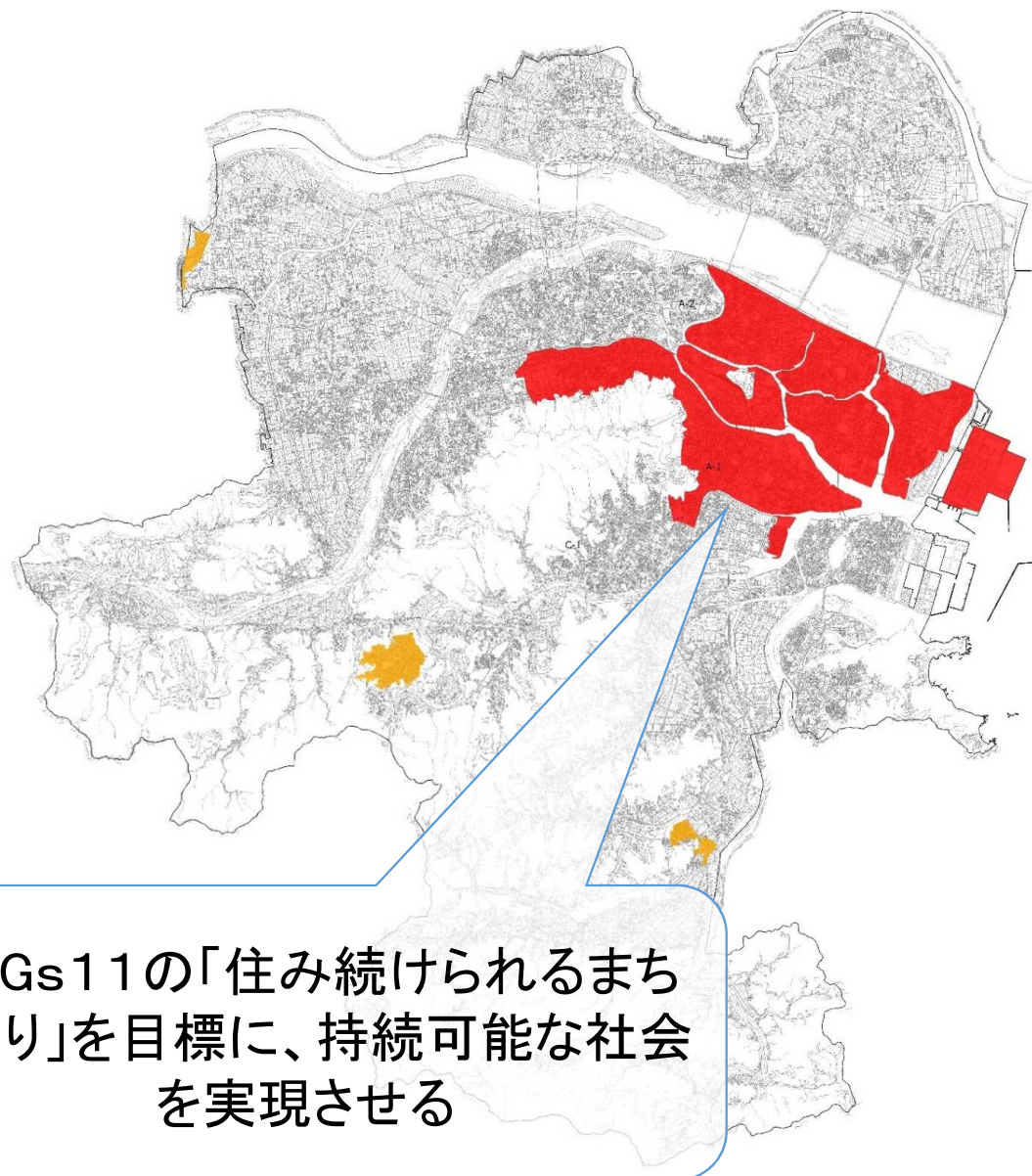
- 長期的に下水道が安価となる
- 良好な水質が保てる
- 省エネルギー
- 都市化の拡大

- 必要な施設にオンデマンドで配置
- コンパクトシティ
- 持続的な汚水処理システム

新たな污水処理へ

徳島市の取り組み

- 公共下水道での整備予定エリアを縮小
- 流域下水道を含め、市街化調整区域では基本的に浄化槽による個別処理
- 既存の污水処理施設は、災害に強く、被災しても速やかな復旧が可能なものへ改築



徳島市污水適正処理構想区域（案）

